

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 5日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22330226

研究課題名（和文）

急変する世界環境下での高等教育の国際化に関する総合的研究

研究課題名（英文） Comprehensive Research on Internationalization of Higher Education under Rapid Structural Change at the Global Level

研究代表者

米澤 彰純 (YONEZAWA AKIYOSHI)

名古屋大学・国際開発研究科・准教授

研究者番号：70251428

研究成果の概要（和文）：世界の急速な構造変動に対する高等教育の国際化のあり方の変化について、理論・国際動向・実証の各側面から総合的に検討した。第一に、各国の高等教育の国際化が、各々の国内・国際双方の文脈の違いにより異なること、第二に、各国が確実にグローバルな変化への対応をより強く迫られていること、第三に、高等教育のイニシアティブの多極化が進行し、日本の高等教育の国際的位置づけに大きな影響を及ぼしていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Changes in the way of internationalization of higher education to the rapid structural changes in the world, was examined in a comprehensive manner from the theory, international trends and field surveys. First, the internationalization of higher education in each country is different due to differences in the domestic and international context. Second, countries are faced with a necessity of stronger response to global changes. Third, the multilateral initiatives of higher education are in progress. These factors have had a major impact on the international positioning of higher education in Japan.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2011年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2012年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
総計	14,000,000	4,200,000	18,200,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学、教育社会学

キーワード：高等教育、国際化

### 1. 研究開始当初の背景

高等教育の国際化の理論・実践面双方での研究は、日本では1983年の留学生10万人受入計画以後、世界的に、留学生の学費のフルコスト化により高等教育の「国際市場」着目、欧州高等教育圏をめざしたボローニャ・プロセス、先進国の他、中国・韓国・中南米諸国などの新興国までを巻き込んだ「世界水準(world class)」の大学育成とそのランキング競争などを経て、多様な研究が蓄積されている。しかしながら、グローバルな知識・情報

の流通と人の流動が富を生み出し、私的な財が高等教育の発展を支えるという楽観的な市場・競争重視の高等教育とその国際化という議論については、特に最近10年ほどは、持続的発展や高等教育の公的な役割などの観点から、異議申し立てがなされるようになった。

研究メンバーは、それぞれ高等教育の比較研究、高等教育事業の国際展開と質保証、学生交流等の実践的研究、高等教育の地域協力、高等教育開発などの観点から、高等教育の国

際化とそれに伴う政策・実践上の課題に関する研究に取り組んできた。その過程において、高等教育国際化の研究・実践両面での指針のあり方が、日本・世界それぞれにおいて大きな転換期に達しており、より持続性のある、多極的なイニシアティブを主体とした新たなビジョンの形成と、その下での研究・実践の再構築が必要とされているとの見解を一にし、これらを総合的・多面的に検討・考察し、国内外に向けた提言を示したいと考えた。

## 2. 研究の目的

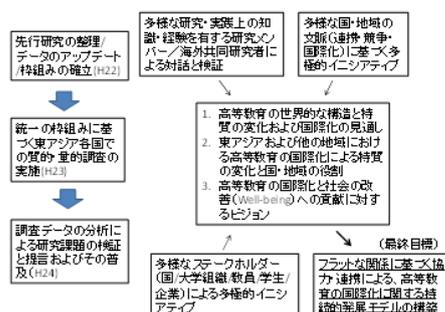
2008年の金融危機前後を境として、グローバル化のなかでの知識経済の中核として考えられていた高等教育国際化の進展の方向性に不透明さが増してきている。本研究では、国際的な留学生市場の拡大を見越した日本の留学生30万人計画など、各国・地域の量的な到達目標の実現性・意義の再検討、東アジア・欧州などを中心に進展が見られる地域協力の枠組みのなかでの持続可能な高等教育の国際化の方向性や社会に対して果たしうる役割について、総合的・多面的な観点から考察する。検討においては、国や大学、学生とその家族などのステークホルダー、そして、世界の多様な地域、様々な規模や特性を持つ国家や経済地域などによる「多極的イニシアティブ」と、世界の福利(well-being)向上のための高等教育の公的役割への協力・連携に着目する。

## 3. 研究の方法

まず、高等教育の国際化に関わる先行研究及び各メンバーが蓄積してきた量的・質的データの整理及び、アップデートを行った。同時に、関連する国際会議・学会等で問題提起・情報収集、意見交換を行った。以上を通じ、高等教育政策・実践、国際協力・開発、国際人的移動などの多様な背景を持つ海外共同研究者を含むメンバー間の密な議論・検討により、設定した分析枠組を確定させた。

その後、日本、マレーシア、韓国、中国など東アジア・東南アジアを中心とする対象国に対して、政府・高等教育機関・教員・学生・企業などへの質的手法を主とした調査を実施した。また、各研究メンバーがそれぞれ他のプロジェクトなどを通じて進めていた国際化に関する質的・量的調査プロジェクトとの成果も合わせ、分析結果をまとめて提言を示し、国内・国際学会で分析結果を発表した。

また、有識者を国内外から招聘した国際高等教育フォーラムを実施し、分析結果・提言についての成果を英語および日本語で出版・普及を進めた。



## 4. 研究成果

本プロジェクトが導き出した、主な知見は、以下の通りである。

- ① 高等教育の世界的な構造と特質の変化および国際化の見通し：高等教育を取り巻く世界の環境は21世紀に入って急変しており、2008年の金融危機を乗り越え、むしろ長期的な趨勢として様々な地域での新興国の台頭とそこでの高等教育のイノベーションを前提とした議論が必要である。また、その中で、各国の高等教育の国際化の実際の姿は、それぞれの国がもつ国内・国際的文脈により異なり、日本をはじめとする各国の国際化の諸相も、それぞれの社会的文脈の把握と自らの高等教育へのオーナーシップを意識して進めていく必要がある。
- ② 東アジアおよび他の地域における高等教育の国際化による特質の変化と国・地域の役割：東アジアでは、Marginsonが「儒教伝統型」として示している、国家や政府の積極的関与によって高等教育の国際的な水準の確保や質の保証、改革・イノベーションが進む傾向が強い。この中で、国際化は、大学の国境を越えた自由な知的活動というあり方だけではすまない、国家への財政やガバナンス依存という深刻な問題をもたらしている。さらに、大学外部からの評価が国際ランキングなど手法として未発達な指標で捉えられる傾向が強く、国際化もその帰結として競争・卓越への志向の中で議論されがちである。また、アジアを中心とする新興諸国の高等教育システムの国際的な台頭が進む中で、高等教育のイニシアティブの多極化が進行している。さらに、アジアにおける地域連携は、アセアンを中心としたイニシアティブに、欧州や豪州、日本・中国・韓国という東アジア諸国などが関わる形で開かれた形で進捗しつつあ

る。これらが、高い研究パフォーマンスを持ちながらも国際化や国際連携において遅れが目立つ日本の高等教育の国際的位置づけに大きな影響を及ぼしている。

- ③ 高等教育研究の 21 世紀型パラダイムの本質の検討の必要性：各国が確実にグローバルな変化への対応をより強く迫られており、高等教育研究自体がこれを前提とした議論を組み立てる必要に迫られている。しかしながら、高等教育をめぐる 20 世紀後半の基本的なパラダイムであるトロウによる大衆化の議論と、クラークによる国家・市場との調整については、現在も大まかには当てはまる。
- ④ 高等教育の国際化と社会への貢献に対するビジョン：高等教育の国際化については、de Wit, Knight など、2000 年代に高等教育の国際化についての議論をリードしてきた識者たちから、国際化が日常化し、規範化していくなかで、従来の輝きを失ってきたとの議論が強く出されるようになってきた。日本でも、高等教育がグローバルな知識社会の中心的なセクターとして位置づけられるようになる中で、世界最高水準の研究・教育、世界からの人材獲得、グローバル人材の育成など、国際的な経済・科学技術の競争を意識した議論が中心となっている。このなかで、高等教育の国際化を通じて社会にどう貢献していくのかという視点の重みが増している。その具現化においては、特にアジアにおいては、自らの視点とアイデンティティを活かしつつ、多国間の多様な多元的なイニシアティブをどう活かしていくのかという問題設定に立つことが不可欠になる。このため、高等教育の国際化は、教育・研究のみならず、ガバナンスやマネジメントなどを含めて総合的に進めていく必要があり、同時にその中核部分としてそれぞれの国、大学のオーナーシップを協調し続けなければならない。

なお、研究成果は、日本教育学会、比較教育学会、高等教育学会などの国内学会、及び国際社会学会などの国際学会、OECD-Japan セミナーなどの政府や国際機関主催のシンポジウム等で発表を重ねてきた。特に、トルコ、シンガポール、台湾、韓国などからは招待講演の依頼が多くあり、我々の研究に対して国際的な注目を得ることに成功した。

また、有識者を国内外から招聘した国際高等教育フォーラムを平成 25 年 2 月に上智大学で実施した。また、分析結果・提言についての成果を英語および日本語で出版・普及を進めた。最終成果は、平成 25 年中に Springer

社より米澤他編として各国を代表する研究者が寄稿する形で出版準備中である。

こうした学術的な貢献を背景に、研究代表者は 2013 年に、Springer 社の新しいブック・シリーズ「アジアの高等教育」のシリーズ編集者の一人として選ばれた。また、研究分担者の北村友人、連携研究者の杉村美紀、黒田一雄などが編集した著書に、研究メンバーが本研究の成果を踏まえて執筆している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① Gracia Liu-Farrer, Chinese Newcomers in Japan: Migration Patterns, Characteristics and Post-3.11 Developments, 査読有、Asian and Pacific Migration Journal, 2013 (掲載決定済) ページ未定
- ② Lili Shi, Akiyoshi Yonezawa, Innovation and entrepreneurship: trials of Japanese universities, Globalisation, Societies and Education, 査読有, 10(3), 2012, 367-385
- ③ Akiyoshi Yonezawa and Arthur Meerman, Multilateral initiatives in the East Asian arena and the challenges for Japanese higher education, Asian Education and Development Studies, 査読有, 1(1), 2012, 57-66 頁
- ④ 米澤彰純、アジアにおける高等教育の国際連携と日本--イニシアティブの多極化とその行方、比較教育学研究、日本比較教育学会誌、査読有、43 号、2011、75-87 頁
- ⑤ Akiyoshi Yonezawa, Much ado about ranking: why can't Japanese universities internationalize?, Japan Forum, 査読有, 22(1-2), 2010, 121-137 頁
- ⑥ 米澤彰純、変動期の高等教育財政：「世界水準大学」政策の行方、日本教育行政学会年報、査読有、65, 2010, 41-59 頁
- ⑦ Yuto Kitamura and Naoko Hoshi, Education for Sustainable Development at Universities in Japan, International Journal of Sustainability in Higher Education, 査読有, 11-3, 2010, 202-216

[学会発表] (計 21 件)

- ① Akiyoshi Yonezawa, Yuto Kitamura, Arthur Meerman, Growing Autonomy in

International Dimension of East Asian Higher Education, 3rd International Higher Education Forum (米澤彰純・北村友人が主催、全科研メンバー及び海外招聘研究者による成果発表)、2013年02月01日～2013年02月02日、上智大学(東京)

- ② Akiyoshi Yonezawa, Internationalization of HE & 'Global University Governance', 台湾比較教育学会シンポ Shifting Patterns of University Governance Reform in East Asia (招待講演), 2012年11月09日～2012年11月09日, 台北
- ③ Akiyoshi Yonezawa, The Challenge of internationalizing Japanese Higher Education amidst Population Decline, Second International Sociology Association (ISA) Forum of Sociology, 2012年08月01日～2012年08月04日, ブエノスアイレス
- ④ 米澤彰純、世界的な構造変化を踏まえた各国との比較による我が国の位置づけと問題点(シンポ講演)、第15回日本高等教育学会大会(招待講演)、2012年06月02日～2012年06月03日、東京大学
- ⑤ Akiyoshi Yonezawa, Challenges for Top Japanese Universities when Establishing a New Global Identity, The 12th International Conference on Education Research (招待講演), 2011年10月26日～2011年10月28日, ソウル大学

[図書] (計5件)

- ① 黒田一雄編、アジアの高等教育ガバナンス、勁草書房、2013年、336頁
- ② アルトバック、バラ編 米澤彰純日本版監訳・執筆、新興国家の世界水準大学戦略、東信堂、2013、350頁
- ③ 北村友人・杉村美紀編、激動するアジアの大学改革 ―グローバル人材を育成するために、ぎょうせい、2012、295頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

米澤 彰純 (YONEZAWA AKIYOSHI)  
名古屋大学・大学院国際開発研究科・准教授  
研究者番号：70251428

### (2) 研究分担者

塚原 修一 (TSUKAHARA SHUICHI)  
国立教育政策研究所・高等教育研究部・部長  
研究者番号：00155334  
大森 不二雄 (OHMORI FUJIO)

首都大学東京・大学教育機能開発総合研究センター・教授

研究者番号：10363540

太田 浩 (OHTA HIROSHI)

一橋大学・国際教育センター・教授

北村 友人 (KITAMURA YUTO)

研究者番号：70345461

上智大学・総合人間科学部・准教授

研究者番号：30362221

黄 福涛 (HUANG FUTAO)

広島大学・高等教育研究開発センター・教授

研究者番号：60335693

米澤 由香子 (YONEZAWA YUKAKO)

東北大学・国際教育院・准教授

研究者番号：60597764

(H22：連携研究者)

グラシア・ファーラー (FARRER GRACIA)

早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・准教授

研究者番号：70436062

(H22：連携研究者)

### (3) 連携研究者

堀田 泰司 (HOTTA TAIJI)

広島大学・国際センター・准教授

研究者番号：40304456

杉村 美紀 (SUGIMURA MIKI)

上智大学・総合人間科学部・准教授

研究者番号：60365674

上別府 隆男 (KAMIBEPPU TAKAO)

東京女学館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：50350707

羽田 貴史 (HATA TAKASHI)

東北大学・高等教育開発推進センター・教授

研究者番号：90125790

鴨川 明子 (KAMOGAWA AKIKO)

山梨大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：40386545

黒田 一雄 (KURODA KAZUO)

早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・教授

研究者番号：70294600

森 利枝 (MORI RIE)

大学評価・学位授与機構・研究開発部・准教授

研究者番号：00271578

秋庭 裕子 (AKIBA HIROKO)

一橋大学・大学院商学研究科・講師

研究者番号：10313826

末松 和子 (SUEMATSU KAZUKO)

東北大学・国際交流センター・教授

研究者番号：20374887

竹中 歩 (TAKENAKA AYUMI)

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：60564680